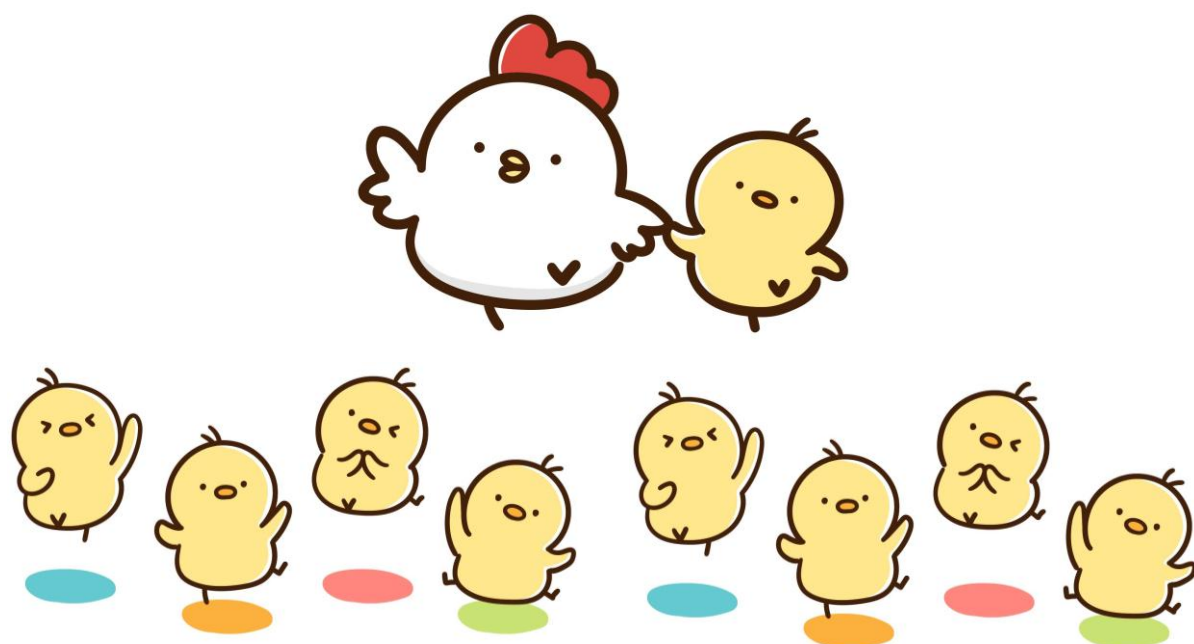


移行期サポート入院

いこサポ

高松医療センターでは移行期の患者さんをサポートする
『いこサポ』入院プログラムを行っています。

『いこサポ』入院で
移行期サポート！



高松医療センター
移行期医療支援室 『いこ～よ』

移行って何？どうして必要なの？

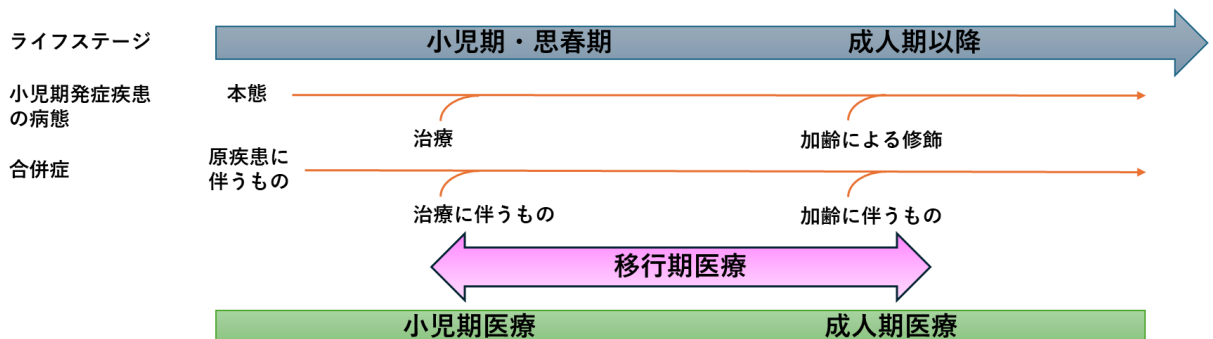


成人を迎えた小児期発症の慢性疾患患者さんが、何科を受診すればよいか分からないという声をよく聞きます。

小児科は15～18歳までの年齢の患者さんを対象にしていることが多く、成人期に発症する合併症の診療に慣れていません。

一方で、成人診療科の医師も小児期発症の慢性疾患の診療には慣れていないことが多いです。

こうした患者さんがライフステージに関わらず切れ目なく医療を受けられるようにするプロセスを“移行”といい、そのために必要な医療体制を“移行期医療”と呼びます。

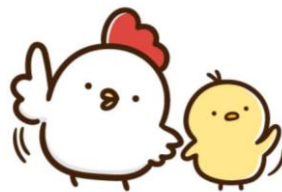


“移行”という言葉からは医療のバトンを渡すリレーを思い浮かべますが、実際は常に色々な医療機関、福祉施設等が協力し合って患者さんを支える必要があり、リレーというより医療者が二人三脚で寄り添いながら患者さんが歩む人生をサポートすることが重要です。

当院では、多職種が連携しながらこうした患者をサポートする体制を整えています。また、他の医療機関と連携しながら移行期医療をサポートする“移行期医療支援ネットワーク”の構築にも取り組んでいます。



移行期サポート入院（通称“いこサポ入院”）について



【対象】

小児期発症の慢性疾患による重度の心身障害を持つ医療的ケア児（者）

【検査内容】

<呼吸検査>

重度の心身障害を持つ医療的ケア児（者）は、麻痺や筋緊張による胸郭の変形や筋力低下による呼吸障害を起こします。また、のどの筋肉の低下によって上気道の閉塞や睡眠時無呼吸症候群を起こすことがあります。

これらの症状は本人の訴えがないため気付かれにくく、潜在的に重症化する前に定期的な検査をする必要があります。

<嚥下機能検査>

食べるという行動には“嚥む力”“食べ物を運ぶ力”“飲み込む力”など様々な機能が関連し、筋力低下や筋緊張の進行などによって段階的にその能力が落ちてきます。嚥下機能の低下によって誤嚥性肺炎や窒息などの重篤な合併症を引き起こす可能性が高まります。

嚥下造影検査は造影剤を使用して視覚的に嚥下機能を評価する検査です。

これにより、食形態の変更や誤嚥を起こしにくくするための経管栄養や誤嚥防止術といった治療の必要性を評価します。

<栄養評価>

寝たきりの状態など活動量が低下すると必要とする摂取カロリーが少なくなります。一方で、本来食事に含まれているセレン、亜鉛、カルニチン、銅などの微量元素が低下する可能性があります。

微量元素は、必要とする量はごくわずかですが、身体にとって大切な働きをするものです。定期的にこうした様々な栄養素をチェックして食事内容を見直すことが必要です。

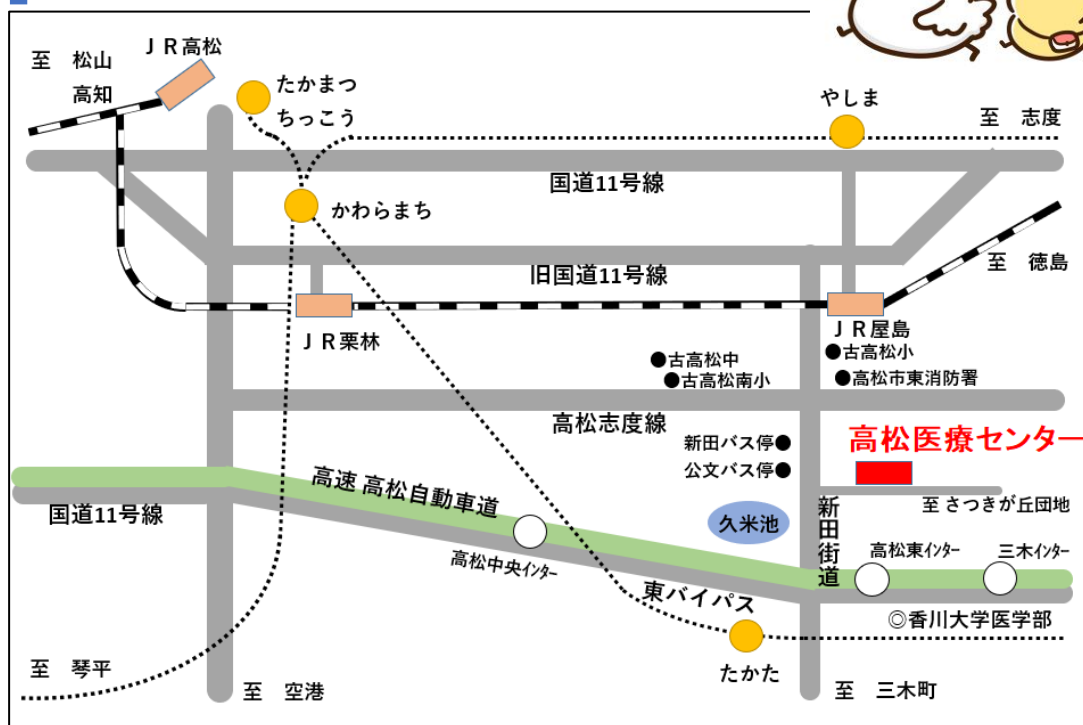


いこサポ入院日程（例）

	月	火	水	木	金
1 週目			入院 レントゲン 摂食嚥下リハビリ 運動機能リハビリ	血液検査 心電図検査	摂食嚥下リハビリ
2 週目	超音波検査 作業療法リハビリ	運動機能リハビリ 嚥下造影検査	栄養チーム回診 ホルター心電図 装着	ホルター心電図 回収 作業療法リハビリ	退院



アクセス



〒761-0193
高松市新田町乙8番地

お車でお越しの方

J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中
信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。
駐車場は無料。

電車でお越しの方

ことでんバス『大学病院線』乗車
(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)
『高松医療センター』下車



問い合わせ先
高松医療センター
移行期医療支援室「いこ～よ」
TEL:087-841-2146